

小倉～坂月の縄文遺跡を歩く

千葉市の遺跡を歩く会

小倉、坂月地域は、都川の支流である坂月川の左岸にあたります。坂月川右岸には南北加曾利貝塚という大きな環状貝塚があるのに対して、左岸は点列貝塚(群)がいくつかあるだけです。大型貝塚ができなかったのは狩猟に力を入れていたからかもしれません。蕨立遺跡/坂月台遺跡では黒曜石製ヤジリの加工跡が発掘されました。千葉市の遺跡と言うと、大型貝塚が注目されて多くの人の関心を集めていますが、違うタイプの縄文時代の遺跡も大きな意味を持っていることがあるかもしれません。小倉から坂月を歩いて、遺跡の出土品や発掘された住居跡から遺跡の意味を考えます。

(中薙遺跡、蕨立遺跡、さら坊遺跡、坂月台遺跡を各々貝塚と呼んでいる文献も多くありますが、千葉市教育委員会発行「千葉市遺跡地図」にはこれらについて“遺跡”との呼称を使用しているため、これに準じました。)

1. 中薙遺跡（なかなぎ：縄文中期） ≪ 図 5,6,7 参照 ≫

- 都川の支流である坂月川が流れる古山支谷から北東に分かれる大道山支谷の最奥部に位置する。
- 遺跡発掘調査が行われた千葉東警察署の標高は 33m。
- 竪穴式住居跡を貝層とする点列貝塚の貝種は、90%以上がイボキサゴ。他はアサリなど。

2. 蕨立遺跡（縄文中期・後期） ≪ 図 8,9,10 参照 ≫

- 標高約 36m、谷地の水田との比高差は 16m。
- 大道山支谷の中部に面する。
- 直径約 100m の点在環状貝塚。
- この遺跡に同時に存在した住居は 6 軒程度。
- 石鏃、打製石斧、磨製石斧出土。
- 骨鏃、牙斧 出土。
- 貝層から、シカ、イノシシ、サル、クジラの骨が出土。人骨、イヌの骨も出土。
- 灰の分析が行われたが、イネ/麦類のプラントオパールは見出せなかった。(岡山の縄文中期の遺跡ではイネ(熱帯ジャポニカ)/小麦のプラントオパールが発見されている)
- 1979 年調査では第 47 住居で 385 点 (752g) の黒曜石チップが発掘された。この住居で原石をヤジリなどに加工していたと考えられる。

1979 年調査では蕨立遺跡で合計約 1700g の黒曜石チップが発掘された(1 遺跡で黒曜石が 1000g 以上発掘されることは稀)。同時に出土した土器の型式から、縄文中期初頭(5000 年前頃)の短期間に多量の黒曜石がこの遺跡で加工された。

蛍光 X 線分析より、蕨立遺跡で発掘された黒曜石はすべて伊豆七島・神津島産。

神津島から原石が蕨立遺跡に持ち込まれ、加工され、石器が近隣の集落で使用された。なぜ都川河口近くの集落や大貝塚が構築された集落で黒曜石の加工が行われず、蕨立遺跡で加工されたのか、更なる調査が行われれば、石材流通網が解明される。

3. さら坊遺跡（縄文中期・後期）

- 1965年（昭和40年）千城台ニュータウン造成工事が始まり、さら坊貝塚は発掘調査されることなく掘削された。
- 大道山支谷に面する台地端部に直径3～5mの小貝塚が10ヶ所分布していることは観察され、台地基部には20数基の竪穴式住居の落込みが確認された。
- 台地基部は蕨立遺跡と連続した集落であることが想像され、さらに味噌草遺跡（/坂月台遺跡）は連続した一集落とも考えられる。

4. 坂月台遺跡（縄文中期、後期、晩期）

- 標高約34m、谷地の水田との比高差は約20m。
- 大道山支谷が古山支谷に合流する地点に面する。
- 点列環状貝塚。東西約90m、南北約150m。
- 貝類はキサゴ（註休キコ）が主体。次いで小型ハマグリ、マガキ、アサリ、シオフキ。
- シカ、イノシシ、クロダイの骨が出土。
- たたき石、石鏃、打製石器、石皿、スリ石 出土。
- 縄文土器、弥生式土器、土師器、須恵器、陶器 出土。
- 酒詰仲男氏発掘調査報告によると、縄文後期後半（3500年前頃）貝層で多量の黒曜石チップが出土。石器加工が坂月台遺跡で行われたと推定した。千葉市の縄文遺跡では縄文後期になると黒曜石製石器が大幅に減少していることから、坂月台遺跡の石材流通網における意味が重要と考えられる。

参考文献

- ① 千葉市誌 第一巻、資料編1 1953年発行
- ② 千葉市史 第一巻、資料編1 1974年発行
- ③ 貝塚博物館紀要 28号「千葉市内縄文時代中期遺跡出土黒曜石の原産地推定」

以上